

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

【第37回】

野多目小「わいわい広場」の開設を通して ～ 放課後の子どもの遊び場づくり ～

福岡市立野多目小学校長 原 口 勝

昨年の9月まで閑古鳥が鳴いていた運動場は、今や、竹馬や石蹴り・鬼ごっこなどに興じ楽しそうに歓声をあげたり、力いっぱい走り回ったりする子どもたちであふれかえっています。どの子ども遊びを心から楽しんでいる無邪気な笑顔でいっぱいです……

本校の「わいわい広場」は、平成21年10月2日に発足したばかりの新しい放課後全児童施策です。

この事業を始めて1ヵ月もたたない内に登録児童が300人を超し、一日平均100名近くの子どもたちが利用している状況から、いかに切望されていた事業なのかが伺えました。

本校の喫緊の課題は「児童の体力の低下」「児童相互のコミュニケーション力の不足」「テレビやゲーム等のメディア接触」の解決であり、しかも家庭や地域社会と連携しながら解決していくことを求めています。その解決の一方策として、この「わいわい広場」の開設に踏み切った訳です。

週3日の実施を楽しみにやってきた子どもたちは、自分が遊びたい物で、遊びたい所で、遊びたい友達と思いきり遊べるという“自由”の中で遊びを創造しています。また、週一回のNPO「プレーパークの会」の支援もあり、遊びの種類の拡大だけではなく、他学級や他学年の友達と知り合う機会が増え、学校生活の中でも声を掛け合う姿も見られています。しかし、もっとも大きな成果としては、社会のルールが身についてきている点とメディア漬けから脱却してきている点です。元気な挨拶から始まり、焦る気持ちを抑えながらランドセルを整頓し受付を終えてから遊ぶ。遊んだ後は後片付けをし、最後は元気な挨拶で終わるという「わいわい広場」でのルールを守ることによって規範意識が育ってきていることがわかります。また、一時たりとも手放せなかったゲーム機に目もくれず、遊びに夢中になっているこどもの姿をうれしく思いますという保護者からの声を聞くにつれ「わいわい広場」が子どもたちにとって“居場所”になってきていることを感じております。

最後に、『サタディわくわく広場』など楽しいイベントを企画していただいたり、保護者がボランティアで見守り隊を結成し子どもたちの安全を見守っていただいたりしていることに感謝しつつ、これからも地域や保護者の皆様方と連携し、知・徳・体の調和のとれた子どもたちの育成を図って参りたいと考えております。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第135号に掲載）